

SR532/SR542

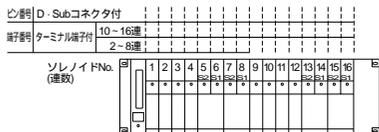
結線方法について



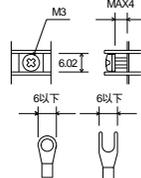
- 本品は防滴構造ではありません。水滴のかかる可能性のある場所では使用できません。

- ピンNoとソレノイドの配置、結線仕様表中の端子ピンNoは、図のようにソレノイドと対応します。

配置図



●ターミナル端子付

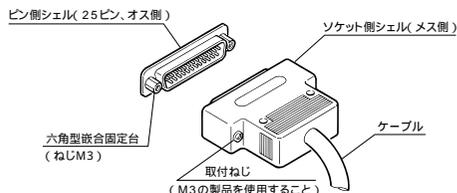


M3ねじ付ピン端子盤

【注意】

適合端子は、丸形端子、Y形端子とも6mm以下の物をご使用ください。

●D-subコネクタ付



コネクタ仕様

ピン側コネクタ	圧着スナップインコンタクト ピン数 25ピン 六角型嵌合固定台・M3ねじ付 (形式: DBU・25P-FO 日本航空電子工業株式会社製)
適合ソケット側コネクタ	取付ねじM3でピン数25ピンに適合するものであればメーカー形式を関係なく使用できます。

【注意】適合ソケット側コネクタは、添付になりませんのでお客様においてご購入ください。また、適合ソケット側コネクタの取扱い方法、選択基準、ケーブルの選択などは、各コネクタメーカーにご相談ください。

使用例)

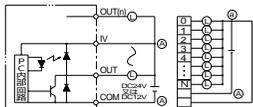
日本航空電子工業株式会社製

- フラットケーブル用: ソケット (形式: DBSP・JB25S)
: ストレインリリーフ (形式: DBSP・SR)
- 多芯ケーブル用: ソケット (形式: DB・25S・N)
: シェル (形式: DB・C2・J9・S3)

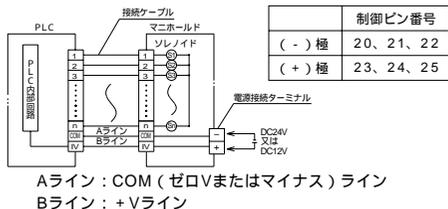
電源接続ターミナル



D-subコネクタ付には電源供給用端子盤(電源接続用ターミナル)が装備してあります。内部回路に出力部より電源の供給を必要とするタイプの出力ユニット(図参照)において、負荷(ソレノイド)ラインと同時に、電源ラインを同一ケーブルで接続することができます。



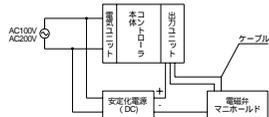
PLCとマニホールド(コネクタ)の接続



システム構成例

コントローラがマイナス共通の時、マニホールド側はプラス共通タイプになります。このシステム構成例は、すべてコントローラ側がマイナス共通タイプ(マニホールド側はプラス共通タイプ)になっています。

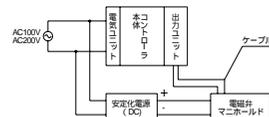
- 出力ユニットにプラス電源を供給しなくてもよい場合<制御電圧のみをケーブルを用いて伝送するシステム>
- 電源接続ターミナル(D-subコネクタ付)はプラス極の配線だけとなり、マイナス極はあき端子となります。
- 端子盤タイプはモンがプラス極になっていますので、そのまま配線してください。



出力ユニットに電源を供給する必要がある場合

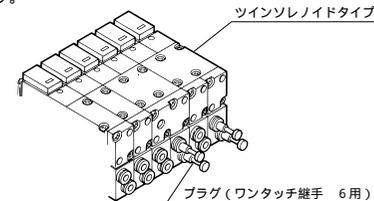
方法

- 電源接続ターミナルにプラス、マイナスの電源を接続して、接続用ケーブルのプラスライン、マイナスラインを通して、出力ユニットに電源を供給する。
- 制御電圧と同じケーブルでまとめることができます。



ツインソレノイドタイプ

ツインソレノイドタイプをご使用の場合、右側のA、Bポート(ワンタッチ継手)へプラグを差し込んだまま、ご使用ください。なお、ツインソレノイドタイプはシングルソレノイドバルブ2連分に乗っていますので、マニホールド上での配置換えは可能です。



ツインソレノイドタイプ

プラグ(ワンタッチ継手 6用)

ソレノイドについて



- D-subコネクタ付は、AC200Vは使用できません。
- ピン間は、メガテストを行わないでください。

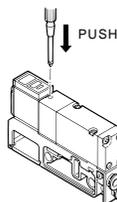
1. DC12V、DC24Vソレノイドの場合、極性をまちがえてもショートの手配はありませんがバルブは作動しません。
2. ツインソレノイド形の場合には、両ソレノイドへの同時通電は行わないでください。バルブがニュートラル状態になることがあります。
3. 回路内に漏れ電流があると、電磁弁が復帰しないなどの誤動作をすることがあります。必ず許容回復漏れ電流値以下でお使いください。回路条件などにより、漏れ電流値が許容回路漏れ電流値を超える場合はご相談ください。

手動操作ボタン



- 試運転調整等でソレノイドに通電しないで電磁弁を切替える時以外は操作しないでください。
- 操作が終了したら必ずボタンが戻っている事を確認してください。また、デテント形の場合はアクチュエータを元位置に戻した事を必ず確認してください。急と、通電時アクチュエータが予期せぬ動作をする場合があります。

先端の細い物で手動操作ボタンをつきあたるまで押して操作します。シングルソレノイドでは、手動ボタンを押している間、バルブは通電時と同じ状態になり、離すと復帰します。デテント形では、S1(S2)側の手動ボタンを押すと、S1(S2)通電時と同じ状態に切り替わり、手動ボタンを離してもその状態が保持されます。復帰させるときはS2(S1)側の手動ボタンを操作します。



【注意】手動ボタンは、針などのように極端に先端の細いものでは操作しないでください。ボタンを破損する事があります。

バルブの着脱



- 電磁弁をマニホールドから取り外す前に、必ず供給圧力・アクチュエータ側圧力が零である事を確認してください。
- 必ず電源を切った事を確認してください。



- 取り外す際、マニホールドおよび電磁弁の取付面(シール面)に傷が付かないように十分注意してください。
- 取り外した部品はゴミの付着・傷つき等がないように、また紛失しないように保管してください。

取外し方法

バルブの取付ねじ2本(ツインソレノイドタイプは4本)を外し、矢印の方向へ持ち上げます。(下図参照)ソレノイドはプラグイン方式となっているため矢印以外の方向へ移動させると端子を傷つける事があります。

取付方法

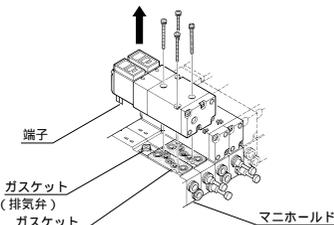
マニホールドに新しいガスケットを装着します。次にソレノイドの端子を挿入口に入るようにセットし、取付ねじを締めます。

締付トルク

SR532シリーズ: 44.1 N・cm

SR542シリーズ: 68.6 N・cm

例) ツインソレノイドタイプ



端子

ガスケット(排気弁)

ガスケット

マニホールド

SR552

結線方法について

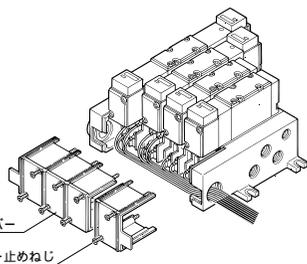
⚠ 注意

- 本品は防滴構造ではありません。水滴のかかる可能性のある場所では使用できません。

プラグインタイプでは端子台とソレノイドはプラグにより接続されています。ターミナルカバー止めねじを緩めてターミナルカバーを取外して端子台を引き抜き結線します。結線した端子台をマニホールドに差し込み、ターミナルカバーを取付、止めねじで固定します。

シングルソレノイドは端子番号2に結線してください。ダブルソレノイドでは端子番号1がバルブのソレノイド1(S1)に、端子番号2がソレノイド2(S2)に接続されます。端子は丸形端子JIS2805 R形1.25-3相当品を使用してください。

【注意】本品は、ターミナル端子付のみとなります。



ソレノイドについて

⚠ 注意

- 端子間は、メガテストを行わないでください。

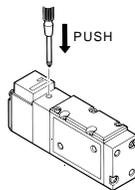
1. DC24Vソレノイドの場合、極性をまちがえてもショートのは心配ありませんがバルブは作動しません。
2. ダブルソレノイド形の場合には、両ソレノイドへの同時通電は行わないでください。バルブがニュートラル状態になることがあります。
3. 回路内に漏れ電流があると、電磁弁が復帰しないなどの誤動作をすることがあります。必ず許容回路漏れ電流値以下でお使いください。回路条件などにより、漏れ電流値が許容回路漏れ電流値を超える場合はご相談ください。

手動操作ボタン

⚠ 注意

- 試運転調整等でソレノイドに通電しないで電磁弁を切換える時以外は操作しないでください。
- 操作が終了したら必ずボタンが戻っている事を確認してください。また、デント形の場合はアクチュエータを元位置に戻した事を必ず確認してください。怠ると、通電時アクチュエータが予期せぬ動作をする場合があります。

先端の細い物で手動操作ボタンをつきあたるまで押して操作します。シングルソレノイドでは、手動ボタンを押している間、バルブは通電時と同じ状態になり、離すと復帰します。デント形では、S1(S2)側の手動ボタンを押すと、S1(S2)通電時と同じ状態に切替わり、手動ボタンを離してもその状態が保持されます。復帰させるときはS2(S1)側の手動ボタンを操作します。



【注意】

手動ボタンは、針などのように極端に先端の細いものでは操作しないでください。ボタンを破損する事があります。

バルブの着脱

⚠ 警告

- 電磁弁をマニホールドから取り外す前に、必ず供給圧力・アクチュエータ側圧力が零である事を確認してください。
- 必ず電源を切っている事を確認してください。

⚠ 注意

- 取り外す際、マニホールドおよび電磁弁の取付面(シール面)に傷が付かないように十分注意してください。
- 取り外した部品はゴミの付着・傷つき等が無いように、また紛失しないように保管してください。

取外し方法

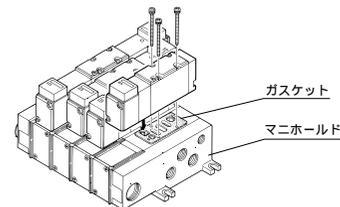
バルブの取付ねじ3本を外し、矢印の方向へ持ち上げます。(下図参照)

ソレノイドはプラグイン方式となっているため矢印以外の方向へ移動させると端子を傷つける事があります。

取付方法

マニホールドに新しいガスケットを装着します。次にプラグをソケットにセットし、取付ねじを締めます。

締付トルク：106N・cm



SR562

結線方法について

⚠ 注意

- 本品は防滴構造ではありません。水滴のかかる可能性のある場所では使用できません。

●ターミナル端子付

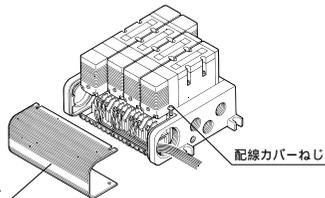
下図のように、マニホールドに端子台が取付てあります。配線カパーを取外し、内部回路に従って、端子台の各端子にリード線を接続してください。配線カパーは、配線カパーねじを緩めるだけで取外しできます。

●適合圧着端子

JIS C 2805 R形 1.25 - 3相当品

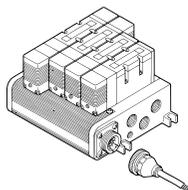
●締付トルク

端子ねじ : 58.8N・cm
配線カパー取付ねじ : 68.6N・cm



●CPCコネクタ付

下図のように、マルチコネクタとマルチコネクタアセンブリの端子番号を合わせて接続してください。



コネクタ仕様

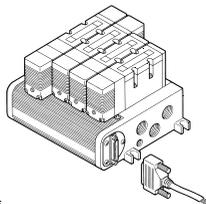
ピン側コネクタ	CPCコネクタ AMP製 (形番 角形フランジ付リセプタクル 206838-1)
適合ソケット側コネクタ	CPCコネクタ AMP製 (形番 ケーブルクランプ:206138-1/ プラグ:206837-1/ 信号用コネクタ(ソケット):66101-2)

【注意】

- 適合ソケット側コネクタは、添付になりませんのでお客様においてご購入ください。また、適合ソケット側コネクタの取扱い方法、選択基準、ケーブルの選択などは、各コネクタメーカーにご相談ください。
- 仕様表中のマニホールド内部回路図を参照の上、制御ピン番号を合わせてください。

●D - subコネクタ付

下図のように、D - subコネクタとD - subコネクタアセンブリの端子番号を合わせて接続してください。



コネクタ仕様

ピン側コネクタ	圧着スナップインコンタクト ピン数25ピン 六角型嵌合固定台-M3ねじ付 (形式:DBU-25P-FO JAE社製)
適合ソケット側コネクタ	取付ねじM3でピン数25ピンに適合するものであればメーカ形式を関係なく使用できます。

【注意】

- 適合ソケット側コネクタは、添付になりませんのでお客様においてご購入ください。また、適用ソケット側コネクタの取扱い方法、選択基準、ケーブルの選択などは、各コネクタメーカーにご相談ください。
- 仕様表中のマニホールド内部回路図を参照の上、制御ピン番号を合わせてください。

ソレノイドについて

⚠ 注意

- リード線間は、メガテストを行わないでください。

1. DC24V仕様には極性がありませんので、プラスコモン、マイナスコモンのどちらでも使用できます。
2. ダブルソレノイド形の場合には、両ソレノイドへの同時通電は行わないでください。バルブの切換えが不完全になります。
3. 回路内に漏れ電流があると、電磁弁が復帰しないなどの誤動作をすることがあります。必ず許容回路漏れ電流値以下でお使いください。回路条件などにより、漏れ電流値が許容回路漏れ電流値を超える場合はご相談ください。

手動操作ボタン

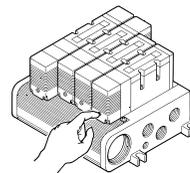
⚠ 注意

- 試運転調整等でソレノイドに通電しないで電磁弁を切換える時以外は操作しないでください。
- 操作が終了したら必ずボタンが戻っている事を確認してください。また、デント形の場合はアクチュエータを元位置に戻した事を必ず確認してください。怠ると、通電時アクチュエータが予期せぬ動作をする場合があります。

指先でつきあたるまで押して操作します。

手動操作ボタンの突出寸法は0.7mmです。

- リターン形では、ボタンを押している間、バルブは通電時と同じ状態になり、ボタンを離すと復帰します。



- デント形では、S2 (S1) 側のボタンを押している間、バルブは通電時と同じ状態に切り替わり、ボタンを離しても通電時の状態が保持されます。元の状態に復帰させるときは、反対側のS2 (S1) のボタンを押します。

バルブの着脱

⚠ 警告

- 電磁弁をマニホールドから取り外す前に、必ず供給圧力・アクチュエータ側圧力が零である事を確認してください。
- 必ず電源を切った事を確認してください。

⚠ 注意

- 取り外す際、マニホールドおよび電磁弁を取付面(シール面)に傷が付かないように十分注意してください。
- 取り外した部品はゴミの付着・傷つき等が無いように、また紛失しないように保管してください。

取外し方法

バルブの取付ねじ4本を外し矢印の方向へ持ち上げます。

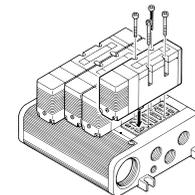
(下図参照)

ソレノイドはプラグイン方式となっているため矢印以外の方向へ移動させると端子を傷つける事があります。

取付方法

マニホールドに新しいガスケットを装着します。次にソレノイドの端子を挿入口に入るようにセットし、取付ねじを締めます。

締付トルク : 105.9N・cm



【注意】パイロット弁は取外さないでください。